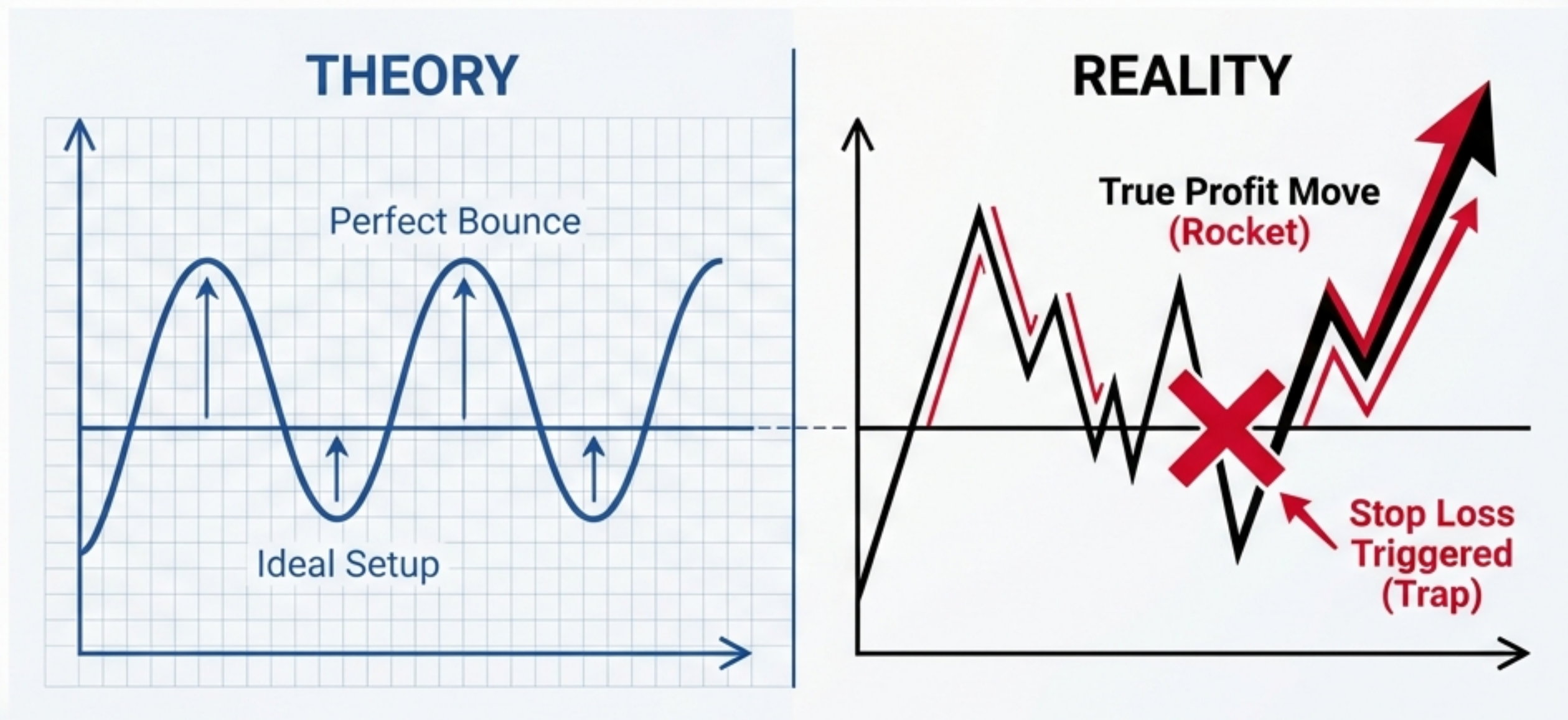


「正しい押し目買い」が負ける理由

教科書通りにトレードしても勝てないあなたへ贈る、相場環境の解剖学



トレンドフォロー

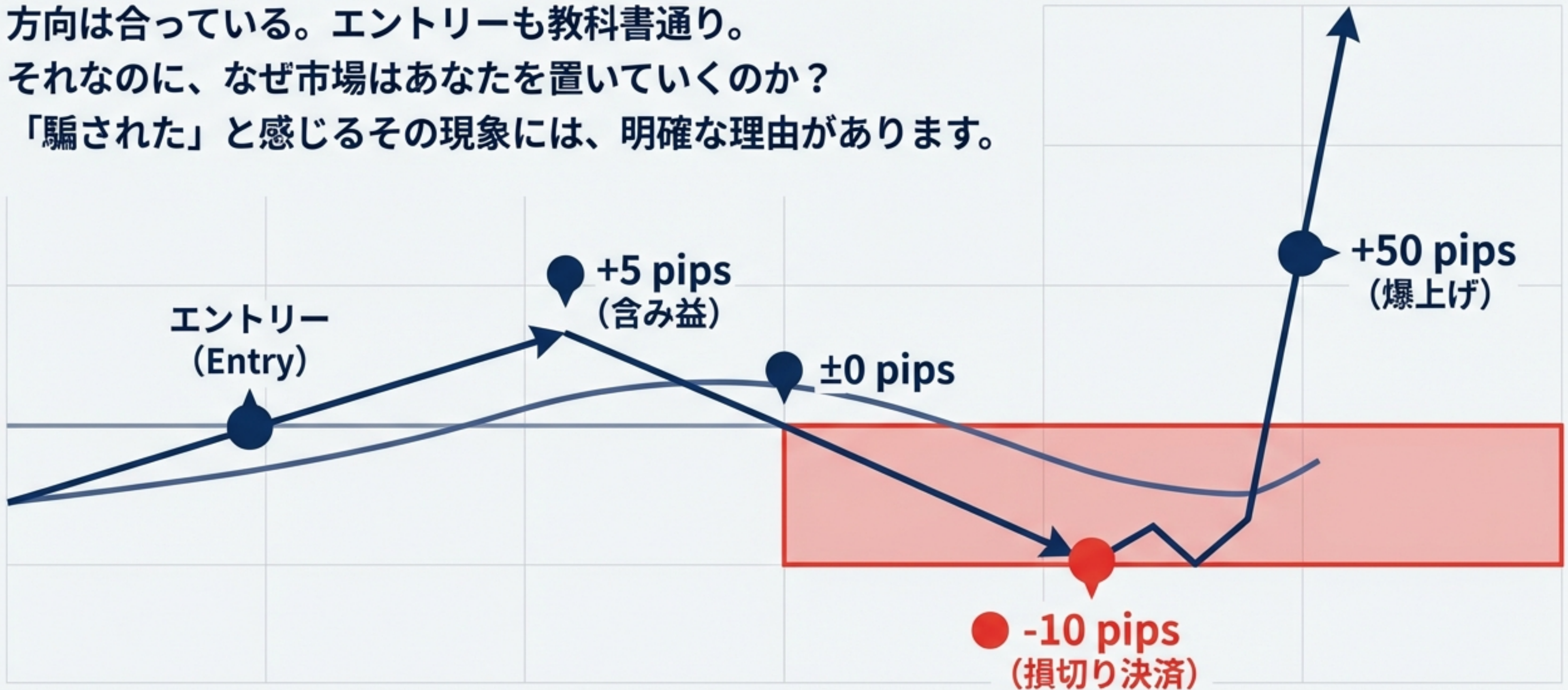
移動平均線

フィボナッチ

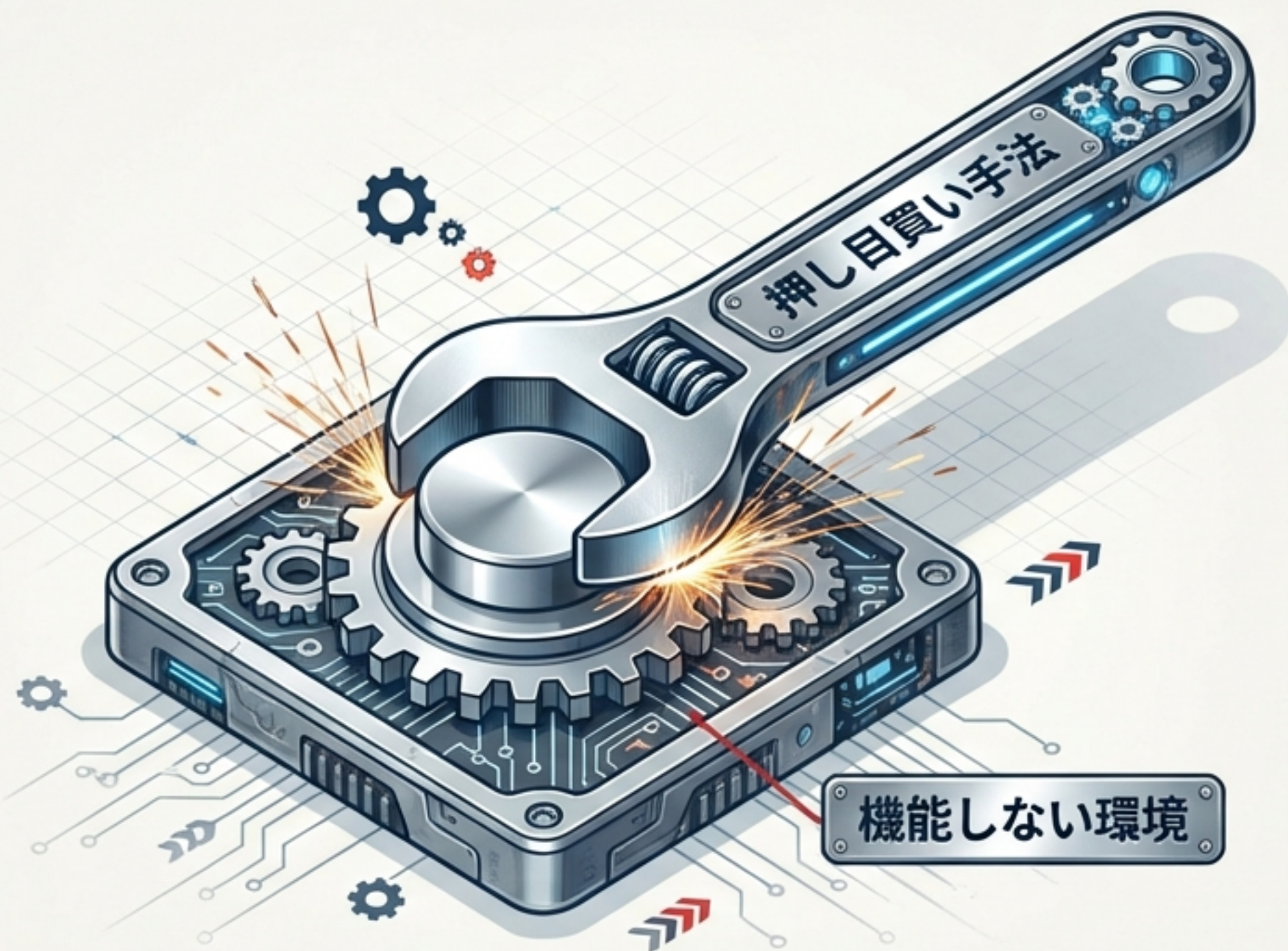
レジサポ転換

あなたは間違っていない。でも、勝てない。

方向は合っている。エントリーも教科書通り。
それなのに、なぜ市場はあなたを置いていくのか？
「騙された」と感じるその現象には、明確な理由があります。



押し目が間違っているのではない。 「機能しない環境」で使っているだけ。



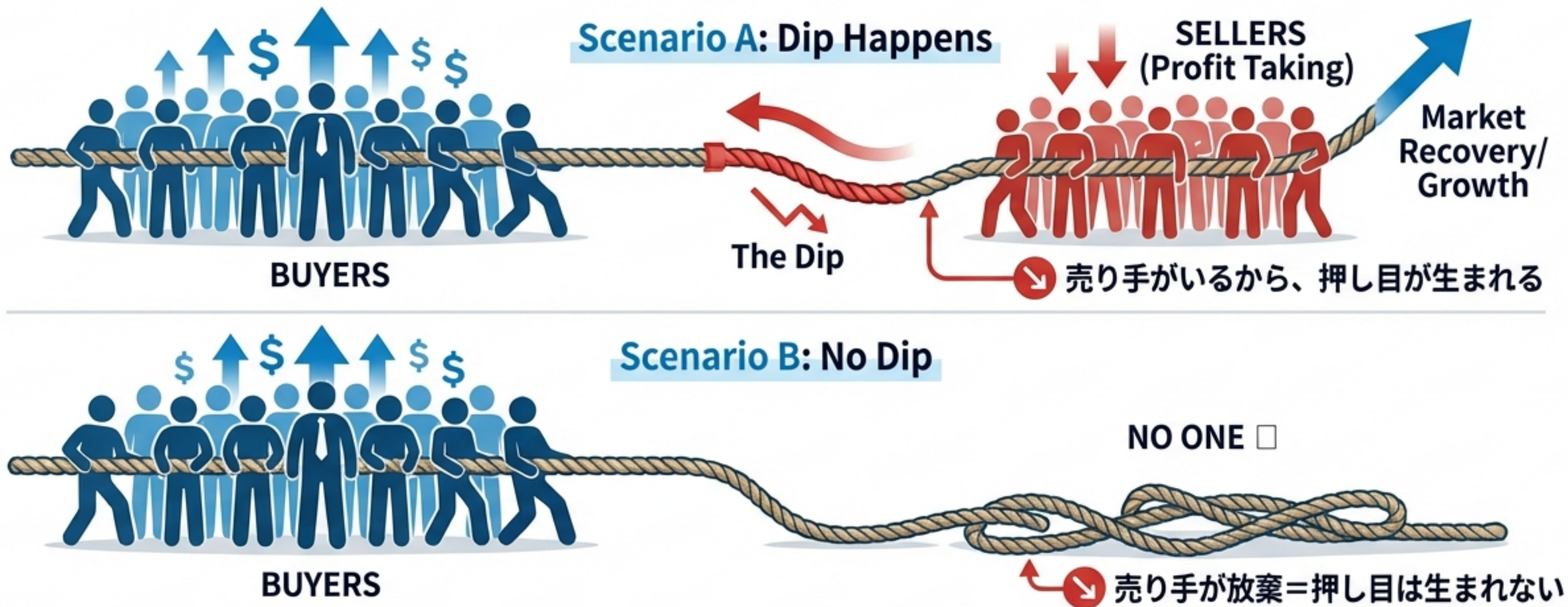
【押し目買いが成立する3つの前提】

- 1. ある程度の利確売り（供給）が出る
- 2. 売りと買いが拮抗する（綱引き）
- 3. 価格または時間の調整が起こる

道具（手法）のせいにする前に、土台（環境）を疑え。

そもそも「押し目」はなぜ生まれるのか？

相場の綱引き (The Tug of War)



押し目とは、勝ち組（買い手）の「利確」という名の休憩である。

負ける最大の原因＝「売る人」がいない

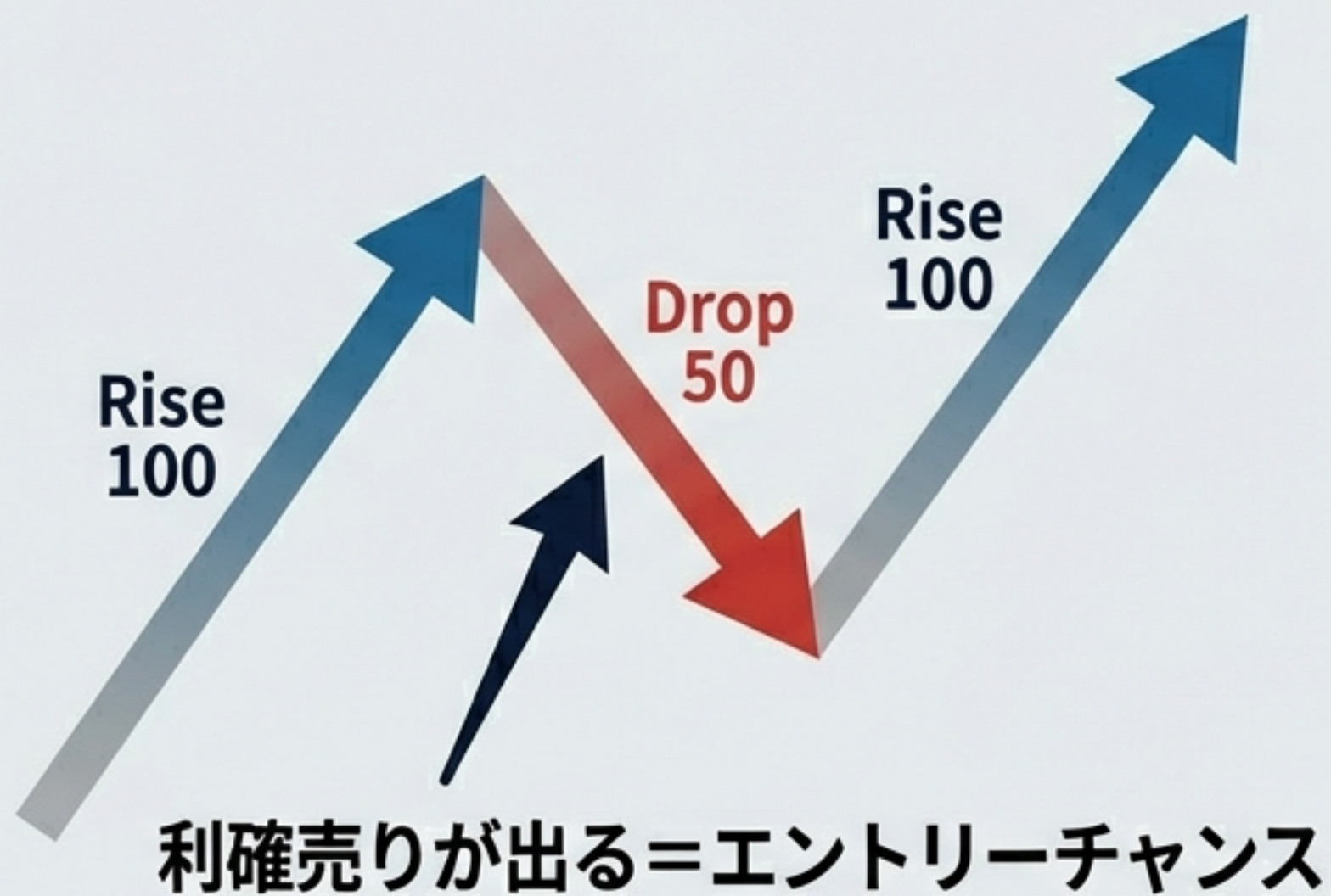
- 強いトレンドでは、誰もが「押し目待ち」になる。
- 売り注文（供給）が消滅するため、価格は下がらずに上昇し続ける。
- 結果、あなたが待っている場所には永遠に届かない。



「機能する相場」 vs 「機能しない相場」

in NotoSansJP-VariableFont_wght.ttf

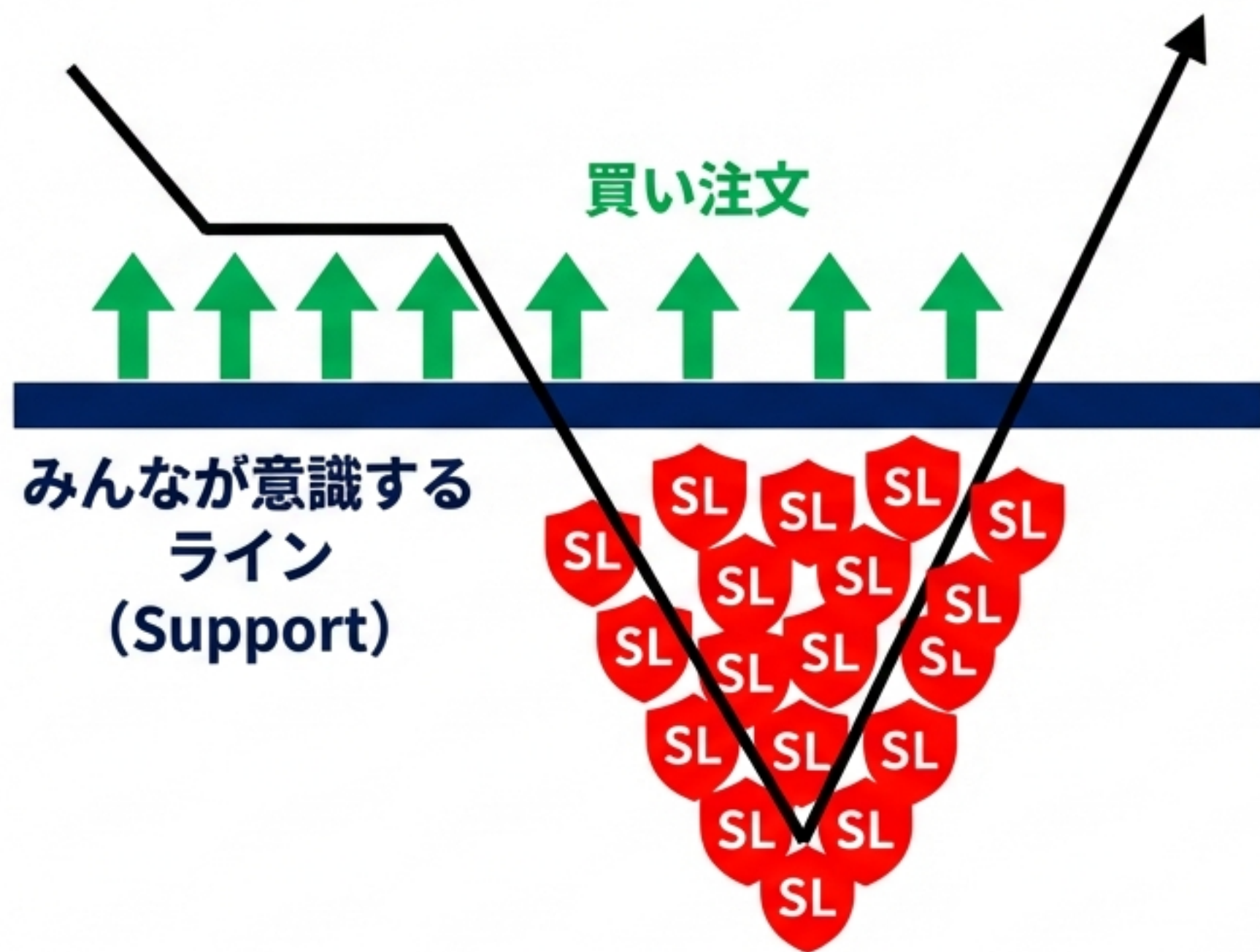
機能する相場 (Functioning)



機能しない相場 (Non-Functioning)



「正しすぎる押し目」は狙われる



- みんなが見ている
- みんなが同じ位置で入る
- みんなが同じ位置に損切りを置く

➡ 大口投資家にとっての
「流動性の宝庫」となる。

なぜ会社員トレーダーは「カモ」にされやすいのか？



「安心」を求めて待っている間に、利益の源泉（トレンド）は過ぎ去っていく。
時間がない人ほど、「教科書の正解」が命取りになる。

「待ちぼうけ」の代償

シナリオA：浅い押し目狙い	
エントリー	145.20
出口	146.00
結果	+8,000円（利益） 

シナリオB：完璧な押し目狙い	
注文	145.00（限定）
低価格	145.20（20pipsで機会損失）
出口	---
結果	0円 （機会損失：-20,000円相当） 

「損をしない」戦略が、実は「一番利益を捨てる」戦略になっている。
強いトレンドにおける機会損失は、損切りよりも高くつく。

Step 1: まずは「環境」を診断せよ

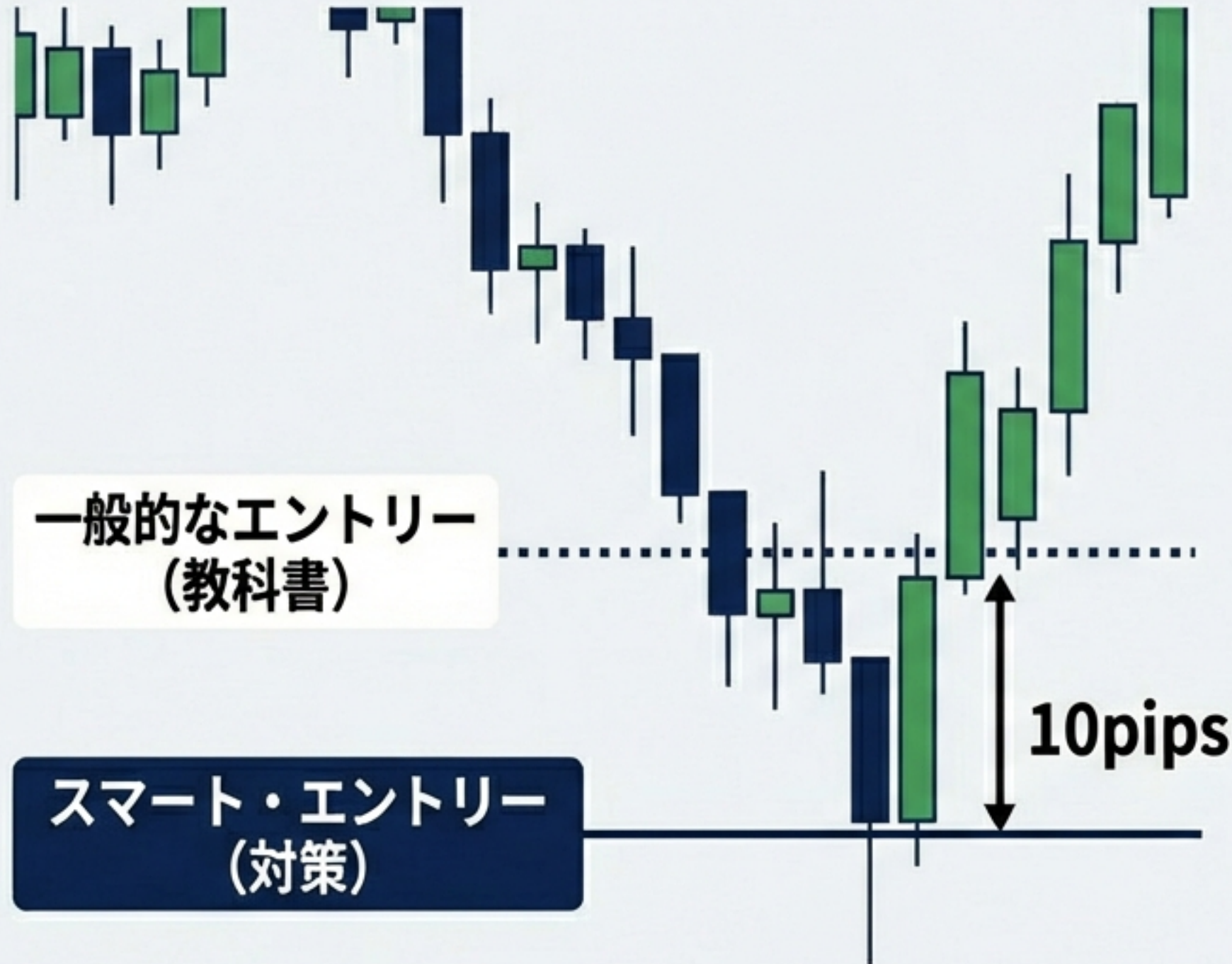


【押し目が来ない相場の特徴】

- ☒ 押しが浅い（直近上昇の30%以下）
- ☒ 時間調整がない（横ばい期間が極端に短い）
- ☒ 出来高が低い（参加者が様子見ムード）

これらに該当する場合、「教科書通りの押し目買い」は捨ててください。戦略の切り替えが必要です。

対策①：大衆より「深く」待つ

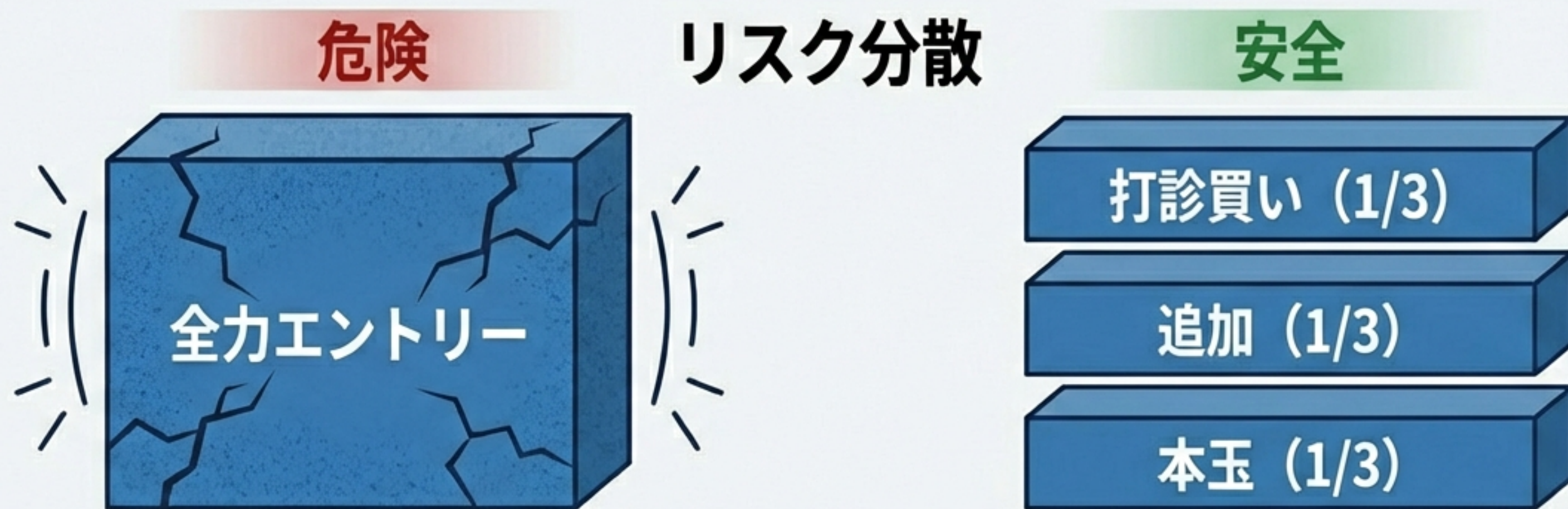


「騙し」や「ストップ狩り」を最初から織り込む。

みんなが損切りする場所こそが、優位性の高いエントリーポイントになる。

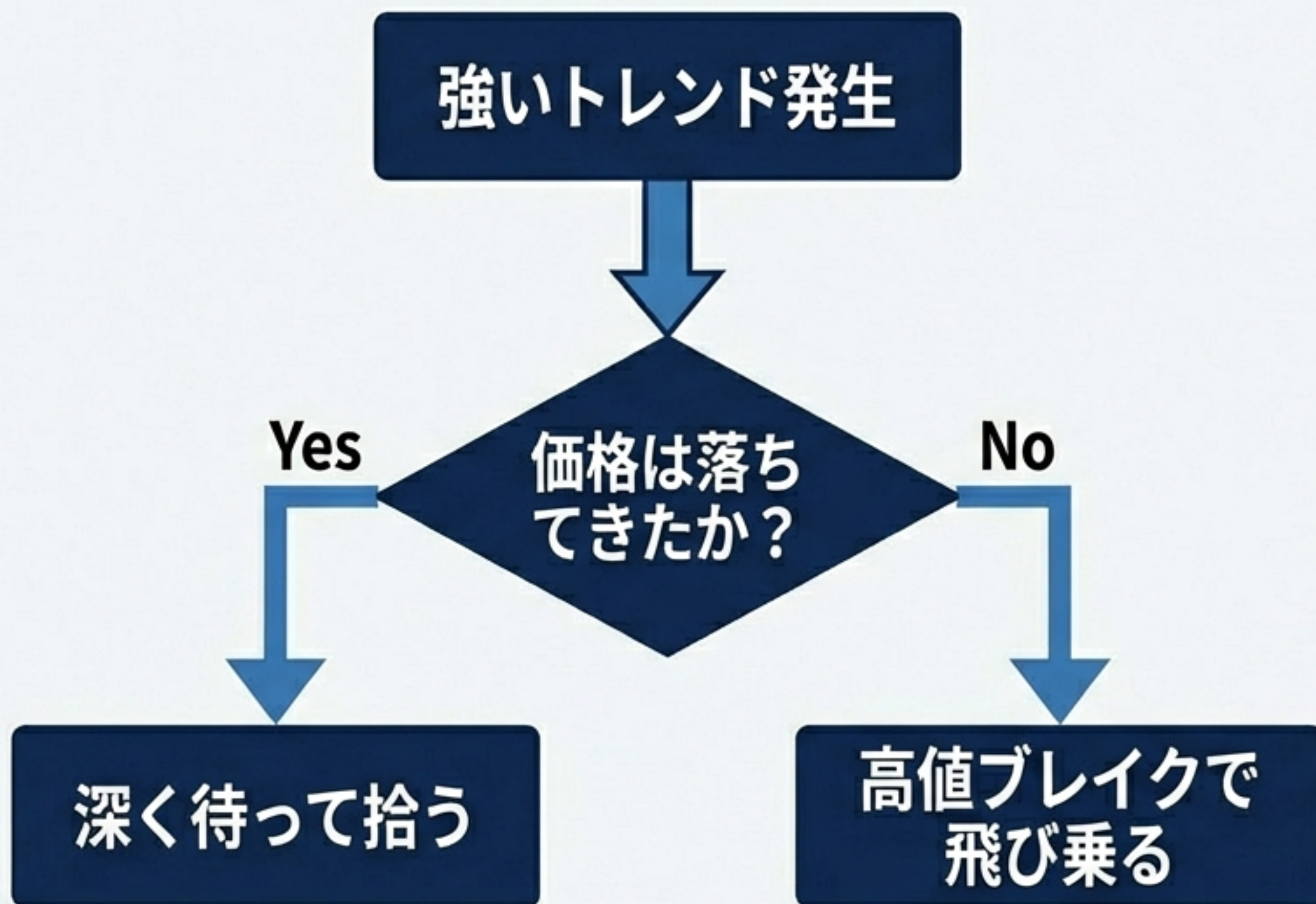
目安：主要ラインの5～10pips下。

対策②：資金を「分散」する



- 一度に入ろうとするから、少しの逆行でパニックになる。
- 「罨」があることを前提に、資金を2～3分割して広く構える。
- 平均取得単価をコントロールする技術。

対策③：押し目が来ないなら「飛び乗る」 勇気



会社員トレーダーの最適解
= 「二段構えのシナリオ」

「押したらここで買う。
押さずに高値を超えたら
あそこで買う」

両方の準備をしておくこと。

「正しさ」よりも「利益」を愛そう

教科書通りの正解



実際の利益

私たちは学校で「正解すること」を教わってきた。
しかし相場は学校ではない。
「綺麗なチャート」で負けるより、「汚いエントリー」で勝つ方が偉い。
環境適応能力こそが、唯一の聖杯である。

今日のまとめ

原因



押し目が来ないのは「売り手（利確）」が不在だから。

診断



浅い押し、短い調整は「待ちぼうけ」のサイン。

対策



- ・大衆より深く待つ（ストップ狩り利用）
- ・資金を分散する
- ・来ない場合はブレイクで飛び乗る

結論



相場は常に変化する。「正解」も変化する。
固執せず、環境に合わせて武器を持ち替えよう。